

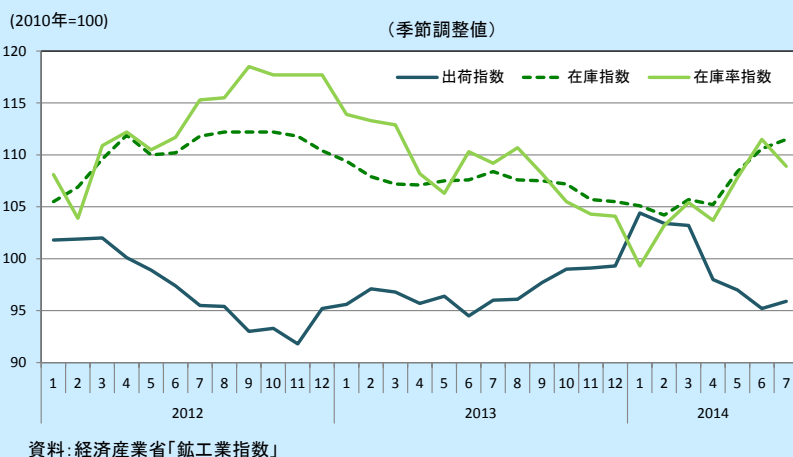
日本：鋳工業生産指数（2014年7月）

MRI Daily Economic Points
August 29, 2014

図表 鋳工業生産指数



図表 出荷指数 在庫指数 在庫率指数



評価ポイント

2014年7月の結果

- 7月の鋳工業生産指数(速報)は、季調済前月比+0.2%となった。6月の同▲3.4%の大幅減少の後、反転はしたものの上昇幅は小幅にとどまった。
- 業種別にみると、石油石炭製品工業や繊維工業など素材業種を中心に15業種中8業種で上昇した。一方、低下業種は加工業種を中心に6業種であり、パソコンなどの落ち込みから情報通信機械工業が▲6.9%と6ヵ月連続で低下したほか、輸送機械工業(同▲2.5%)、電気機械工業(同▲2.4%)なども引き続き低下している。
- 出荷指数は、前月比+0.7%となった。消費税増税前の14年2月から低下が続いていたが、6ヵ月ぶりに上昇に転じた。
- 一方、在庫指数は前月比+0.8%と3ヵ月連続で上昇しているが、上昇幅は徐々に縮小している。
- 生産予測調査では、8月は前月比+1.3%、9月は同+3.5%と生産の回復が見込まれている。これまで減産見込みが続いていた輸送機械が、9月に同+5.4%の増産を見込んでいる。そのほか電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業でも増産を見込んでいる。

基調判断と今後の流れ

- 鋳工業生産指数は、増税後の需要減少を背景に低下傾向にある。
- 増税後の消費の回復ペースが、天候不順の影響などから想定を下回って推移しており、企業の生産活動も抑制気味で推移している。
- 在庫は過度に高い水準ではないことから、消費や設備投資などの需要が回復に向かえば、生産も8月以降、需要見合いで緩やかに持ち直していくであろう。